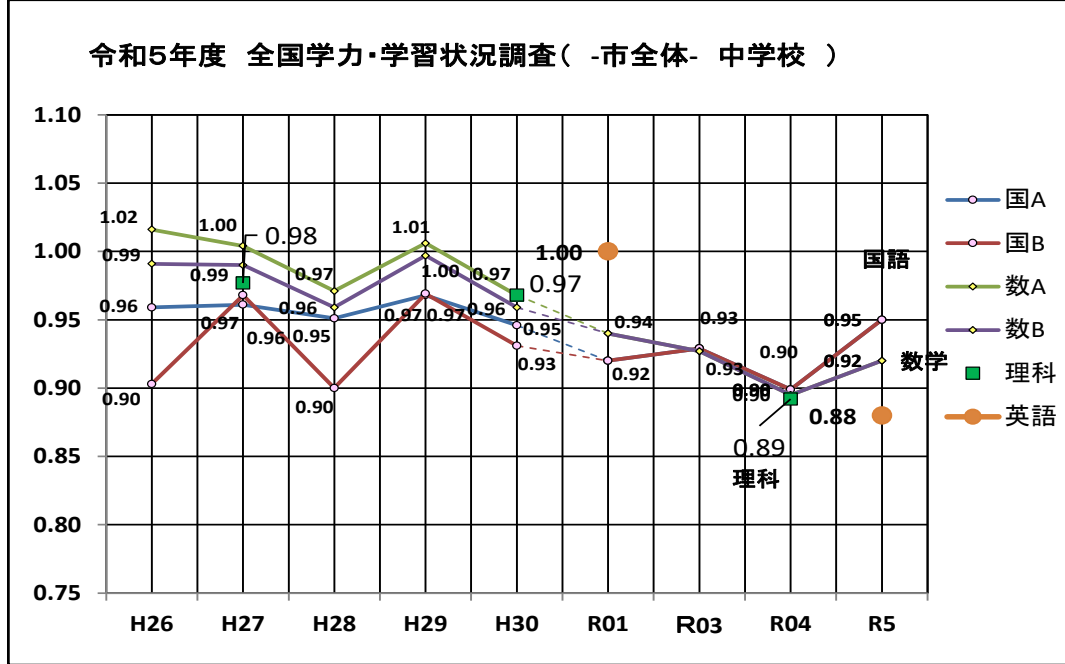


学校名	学級数	児童生徒数
四條畷市立 中学校		419名

1 経年変化グラフ(H26~R5)



3 本年度の各教科分析

(1)国語

RS (市) 国語	観点別平均正答率(%)			問題形式別平均正答率(%)			問題別平均正答率(%)														
	技能・知識	表現・思考	判断・断言	選択式	短答式	記述式	1-1	1-2	1-3	1-4	2-1	2-2	2-3	2-4	3-1	3-2	3-3	3-4	4-1	4-2	4-3
全国 (A)	69.4	69.7	73.1	65.6	68.0		87.5	65.1	76.6	82.5	91.1	63.0	74.2	67.5	54.3	43.9	61.8	72.1	82.5	74.1	50.0
市 (B)	66.4	66.1	69.2	61.7	66.0		85.0	61.0	69.4	77.9	92.4	59.6	63.9	64.8	53.0	29.0	61.0	71.0	84.6	72.2	50.1
B-A	-3.0	-3.6	-3.9	-3.9	-2.0		-2.5	-4.1	-7.2	-4.6	1.3	-3.4	-10.3	-2.7	-1.3	-14.9	-0.8	-1.1	2.1	-1.9	0.1

◇[1-1] 目的や場面に於いて質問する内容を検討することや、◇[1-4]聞き取ったことを基に目的に沿って自分の考えをまとめることは成果が見られた。
 ◆[1-3]話の内容を捉え、知りたい情報に合わせて効果的に質問することに課題がある。
 ⇒文章、記事やインターネット上の内容を読むときは「考え」や「考えの理由や根拠」など、情報と情報との関係について捉えるという活動などが考えられる。インタビューなどの活動を行う際には、メモをとったり、必要に応じて質問したりしながら聞いたり、質問をする際は目的や状況を意識した上で、質問の意図を伝えたり、適切な機会を捉えたりすることを指導することが大切である。
 ・「話の内容を捉え」られていない
 ⇒文章などの情報から、大まかに内容をとらえるだけでなく、「原因」「結果」「意見」「根拠」「具体」「抽象」など、自分で分類しながら、内容を視覚的にわかるようにまとめる活動などが必要と考える。
 ・「効果的に質問すること」に課題がある
 ⇒インタビューの活動の際は目的を意識しながらインタビュー内容を考えたり、引き出したい答えのためによりよい質問内容は何かを考えたり、自分たちのインタビューの方法について、互いに評価を行ったりする等指導の工夫などが考えられる。
 ◆[2-3]文章の中心的部分と付加的な部分について叙述を基に捉え、要旨を把握することに課題が見られた。
 ⇒文章を読み理解したことや考えたことを説明したり文章にまとめたりする活動や、読んだものについて引用して解説したり、考えたことを伝え合ったりする言語活動の充実が必要と考える。
 ◇全国結果に最も近かった問題形式は記述問題である。また、生徒質問紙(58)「国語の授業で、自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にするために必要な情報を資料から引用して書いていますか」の肯定的回答が府国を上回っており記述力を育てるための授業改善が図られていると考えられる。

(2)数学

RS (市) 数学	観点別平均正答率(%)			問題形式別平均正答率(%)			問題別平均正答率(%)																		
	技能・知識	表現・思考	判断・断言	選択式	短答式	記述式	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
全国 (A)	55.7	41.6	45.3	62.6	41.6		46.1	80.5	30.4	42.8	46.1	88.9	58.8	40.9	65.7	33.6	57.5	61.7	42.8	32.1	37.0				
市 (B)	52.0	37.3	42.4	58.4	37.3		50.7	77.5	25.6	36.5	34.4	86.3	55.5	35.8	64.0	27.5	55.2	56.9	39.3	28.2	33.2				
B-A	-3.7	-4.3	-2.9	-4.2	-4.3		-4.6	-3.0	-4.8	-6.3	-11.7	-2.6	-3.3	-5.1	-1.7	-6.1	-2.3	-4.8	-3.5	-3.9	-3.8				

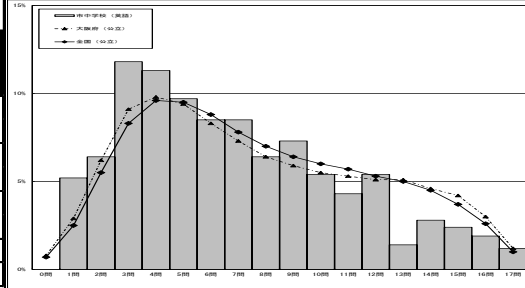
◇領域別の「数と式」では、他領域と比べ正答率は高い。(〔1〕は全国を上回る。)知識・技能の平均正答率は、全国との差が小さい。
 ◆問題形式別では、①【知・技/選択式】については、正答率が低い問題と高い問題に分かれている。②【思・判・表/記述式】については、無答率や誤答例以外の誤答(99)率が高かった。
 ①では、〔3〕平面が1つに決まる条件、〔4〕比例定数とx・yとの関係等、内容理解の定着に課題がある。
 ⇒〔3〕については、日常生活や社会の事象を図形として捉え、考察する学習活動を通して、空間における平面についての理解が深まると考えられる。
 〔4〕については、伴って変わる二つの数量関係の間どのような関数関係があるかを判断する活動を通して、比例定数とx、yとの関係についての理解が深まると考えられる。
 ②では、誤答例より、〔6(2)9(1)〕事柄が成り立つ理由を説明する問題については、記述はしているが表現や根拠が不十分である傾向が高く、〔6(2)3(3)〕見いだした事柄や事実を説明する問題については、記述内容が不十分である傾向が高かった。
 ⇒〔9(1)〕については、仮定から結論を導く推論の過程を数学的に表現し、グループ等で交流し合う活動を単元の中に設定することが必要であると考えられる。思考したことを表現することに繋げる力を育てることも必要。
 〔6(2)3(3)〕については、具体的な数や文字式を用いて予想した事柄が成り立つかどうかを調べる活動、問題解決の過程や結果を振り返り考察する活動、見いだした事柄を数学的に表現する活動を通して、数学的な記述や根拠の説明を繰り返し生徒と確認していく中で、生徒も意識して使い定着に繋がると考えられる。

※ 全国(公立)の平均正答率を1として平均正答率で比較

2 経年変化(H26~R5)

中学校	H26	H27	H28	H29	H30	R1(H31)	R03	R04	R5
国語(上A、下B)	0.96 0.90	0.96 0.97	0.95 0.90	0.97 0.97	0.95 0.93	0.92	0.93	0.90	0.95
数学(上A、下B)	1.02 0.99	1.00 0.99	0.97 0.96	1.01 1.00	0.97 0.96	0.94	0.93	0.90	0.92
理科		0.98			0.97			0.89	
英語						1.00	—		0.88

(3) 英語



R5 (市) 英語	観点別平均正答率(%)					問題別平均正答率(%)																
	技能 知識 表現 思考	表現 思考 判断	選択 式	短答 式	記述 式	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15		
全国(A)	51.5	38.8	54.8	30.1	13.5	79.0	64.4	49.8	61.1	41.2	54.8	56.0	64.5	35.9	59.8	34.7	56.1	19.5	40.4	20.9	29.0	7.4
市(B)	45.6	34.4	49.2	24.3	10.8	75.9	59.3	50.8	58.9	36.9	51.5	47.8	53.2	28.6	50.1	31.9	45.9	15.4	36.2	13.2	23.6	6.1
B-A	-5.9	-4.4	-5.6	-5.8	-2.7	-3.1	-5.1	1.0	-2.2	-4.3	-3.3	-8.2	-11.3	-7.3	-9.7	-2.8	-10.2	-4.1	-4.2	-7.7	-5.4	-1.3

◆[5(1)(2)]単語の意味や文法、文法事項を理解すること、また、事実や考え、気持ちを区別して読むことに課題がある。
 ⇒事実と感想、意見と区別して読むことについて、国語科の指導と関連付け、習得していけるように取り組むことが大切である。
 ◆[8(2)]短い文章の要点を捉えることやその内容に対する感想や自分の考えなどを、話したり、書いたりして表現することに課題がある。
 ⇒社会的な話題を授業で触れ、その内容に対する賛否や感想をもち、その理由などを表現する活動に取り組むことが必要である。
 ◇[1] 情報を正確に聞き取ることに成果がみられた。
 ⇒小学校から、英語の歌、短い物語、フォニックスなどの映像・音声素材授業の中で取り組んでいることや市内全小中学校にALTが配置されていることから、英語のリズムやイントネーションに慣れ親しんでいることが成果に繋がっていると考えられる。

4 学習状況調査

(1) 肯定的回答の上位5項目(全国との差異)

順位	全国との差	番号	ベスト5(中学校)質問内容
1	18.2	(33)	1、2年生のときに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか
2	15.3	(国2)	解答時間は十分でしたか(国語)
3	15.1	(話2)	解答時間は十分でしたか(英語「話すこと」)
4	11.8	(英2)	解答時間は十分でしたか(英語「聞くこと」「読むこと」「書くこと」)
5	10.4	(数2)	解答時間は十分でしたか(数学)

◇「1、2年生のときに受けた授業で、ICT機器を使用しましたか」や「自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表したか」の質問に対して、全国平均正答率よりも肯定的な回答割合が高かった。
 ⇒授業の中でICTを活用し、情報活用能力の向上のための授業づくりが進んでいることがうかがえる。
 ◇「英語への興味・関心」に対する質問での肯定的な回答割合が高くなっている。
 ⇒日々の質の高い英語の授業づくりの成果だと考えられる。

(2) 肯定的回答の下位5項目(全国との差異)

順位	全国との差	番号	ワースト5(中学校)質問内容
1	-13.6	(47)	国語の勉強は好きですか
2	-9.5	(67)	1、2年生のときに受けた授業では、英語を読んで(一文一文ではなく全体の)概要や要点をとらえる活動が行われていたと思いますか
3	-9.3	(10)	困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか
4	-9.3	(12)	学校に行くのは楽しいと思いますか
5	-8.7	(24)	読書は好きですか

◆「国語の勉強は好きか」や「読書は好きか」の質問項目に対して肯定的な回答割合率が低くなっている。⇒国語科を中心とした授業改善、校内研修の充実、学校図書室や他教科と関連した読書活動推進が必要である。
 ◆「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できるか」や「学校に行くのは楽しいと思うか」の質問項目に対しても肯定的な回答割合が低くなっている。
 ⇒安心安全な学校づくり、魅力ある学校づくりに向けて取組みを考えていく必要がある。

5 まとめ(市の学力向上に係る重点事項の分析)

・「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」(主体的な学び)
 に対して肯定的回答は、全国と比べて中学校は(-2.1)であった。日々の授業改善の成果がみられたが、まだまだ自ら課題を設定し、主体的に課題解決に取り組むことに課題が見られた。市としても子ども主体の授業づくりを重点事項の1つに設定しており、授業改善に取り組んでいる。学力向上担当者を中心に、子ども主体の授業をめざした授業改善を今後も各校で進めていく必要がある。

・「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」(協働的な学び)
 に対して肯定的回答は、全国と比べて中学校は(-4.1)であった。考えを深め、広げられるような協働的な学びを実現する授業改善が必要である。情報教育担当者とも連携しながら、ICTを有効に活用した授業づくりの推進を図っていく。

・「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか」(主体的な学び)
 に対して肯定的回答は、全国と比べて中学校は(-3.5)であった。自学力の向上が引き続きの課題である。市としても重点事項の1つとして設定しており、小学校から自主学習ノートなどを活用して家庭学習の習慣づくりに取り組んでいる。中学校でも、テストに向けた計画表の作成など、計画的に学習に取り組むための手立てを行っている。各校の好事例を広め、市域全体で取組みを進めていく必要がある。

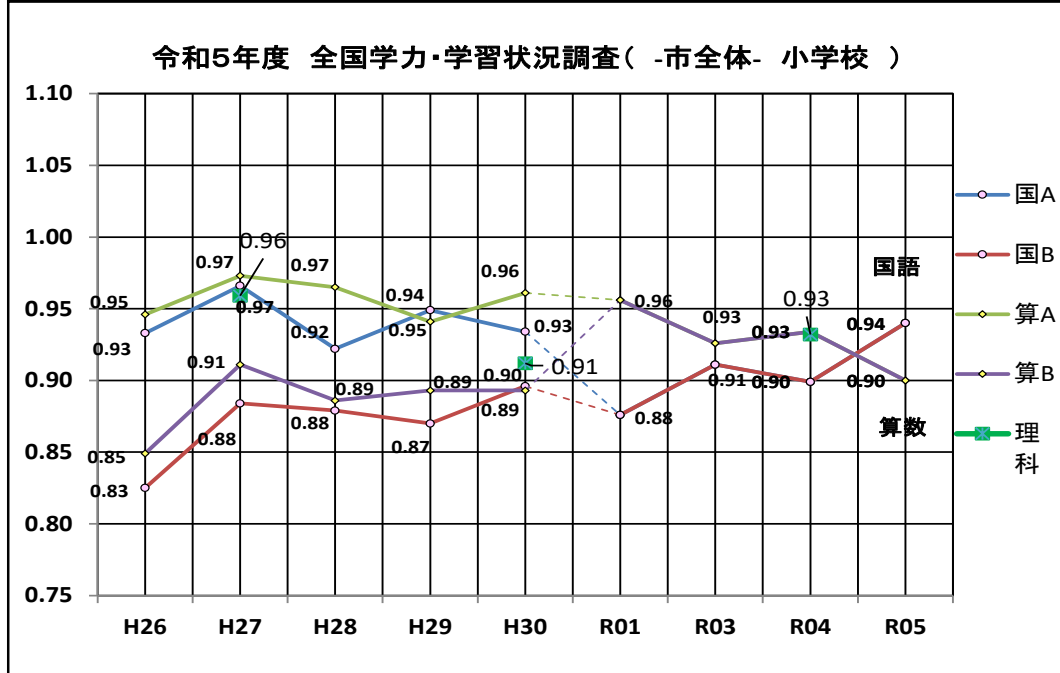
上記3つの質問項目に関して、いずれも肯定回答の生徒の平均正答率が高いという結果がみられた。特に、「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」に対して「当てはまる」と答えた生徒は、「どちらかといえば、当てはまる」と答えた生徒より国語、数学、英語ともに平均正答率が約10%以上高くなっており、引き続き生徒が主体的に学習に取り組めるように授業改善を進めていく。

シート内の表記について:◇(成果)⇒(成果の要因となった取組み) ◆(課題)⇒(改善に向けての取組みを例示)

令和5年度 全国学力・学習状況調査

学校名	学級数	児童生徒数
四條畷市立 小学校		404名

1 経年変化グラフ(H26~R5)

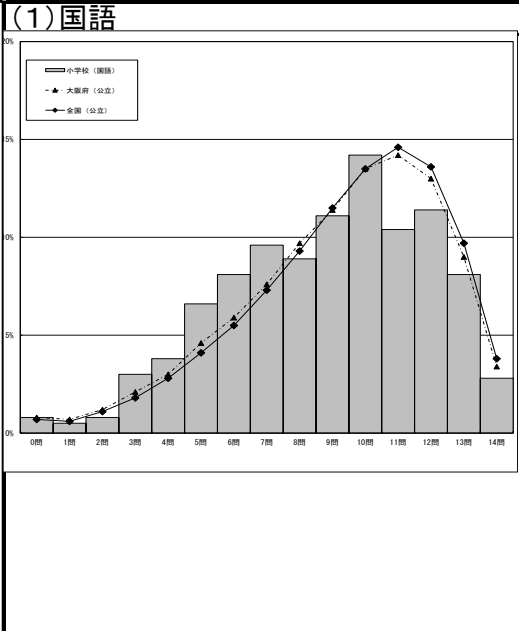


※ 全国(公立)の平均正答率を1として平均正答率で比較

2 経年変化(H26~R5)

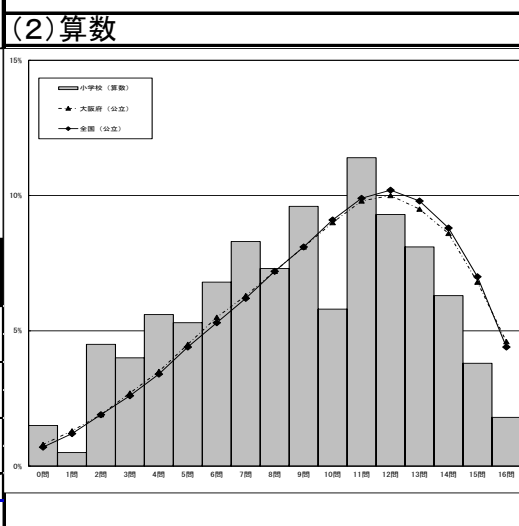
小学校	H26	H27	H28	H29	H30	R1(H31)	R3	R4	R5
国語(上A、下B)	0.93 0.83	0.97 0.88	0.92 0.88	0.95 0.87	0.93 0.90	0.88	0.91	0.90	0.94
算数(上A、下B)	0.95 0.85	0.97 0.91	0.97 0.89	0.94 0.89	0.96 0.89	0.96	0.93	0.93	0.90
理科		0.96			0.91			0.93	

3 本年度の各教科分析



R5(市)国語	観点別平均正答率(%)		問題形式別平均正答率(%)		問題別平均正答率(%)														
	技知能識	表判断考	選択式	短答式	記述式	1	1	ア	ウ	イ	1	1	2	2	2	2	△	△	△
全国(A)	68.9	65.5	73.6	62.7	51.1	64.7	26.7	52.8	72.6	93.1	79.8	90.0	67.4	62.0	56.2	73.6	74.0	70.2	57.6
市(B)	66.2	60.0	70.2	58.9	44.6	58.0	23.0	48.4	69.4	93.9	79.0	87.8	60.8	60.0	49.4	67.6	69.9	61.5	54.7
B-A	-2.7	-5.5	-3.4	-3.8	-6.5	-6.7	-3.7	-4.4	-3.2	0.8	-0.8	-2.2	-6.6	-2.0	-6.8	-6.0	-4.1	-8.7	-2.9

◇[1四]文章の種類と特徴を理解すること、[2一]目的を意識して中心となる語や文を見つけて要約する問題は、各校の授業改善の成果が見られた。知識理解、読むことの精査・解釈などの授業改善の成果として、話の中心となる語や文の内容を捉えることは比較的できている。
 ◆[2二]目的に応じ文章と図表と結び付け必要な情報を見つけること、[2三]情報と情報を関係づけることに課題がある。
 ⇒複数の情報を「比較」、「関連付け」して検討する学習活動を取り入れる。学習指導要領の「読むこと」の指導事項との関連を図り、情報について図示等により語句と語句との関係を表し考えをより明確なものにしたり、思考をまとめたりする活動をとって、そのよさを子どもが気付けるような指導の工夫が必要。
 ◆[3二]目的や意図に応じ、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることに課題がみられた。
 ⇒話し合いの場面の資料や教材を活用しながら、話し合いでのそれぞれの話し手の考えや自分の考えの共通点や相違点を整理したり、事実、意見、解釈などについてまとめる活動が必要と考える。
 関連する児童質問紙項目として、
 (48)国語の授業で、立場や考えの違いを意識して話し合い、自分とは違う意見を生かして自分の考えをまとめていますか
 (49)国語の授業で、書いた文章の感想や意見を学級の友達と伝え合い、自分の文章のよいところを見つけていますか
 ⇒上記を児童が実感できるように授業改善や指導工夫が必要と考える。



R5(市)算数	観点別平均正答率(%)		問題形式別平均正答率(%)		問題別平均正答率(%)																
	技知能識	表判断考	選択式	短答式	記述式	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4				
全国(A)	67.2	56.5	57.7	74.7	47.3	93.5	88.5	55.5	80.8	59.8	87.2	24.9	20.8	70.3	56.7	72.4	47.6	46.0	75.7	56.2	64.6
市(B)	61.3	48.1	47.9	71.2	37.6	94.4	85.1	49.2	77.5	50.8	81.8	20.2	11.4	59.6	46.2	68.4	41.2	34.3	70.7	43.7	53.8
B-A	-5.9	-8.4	-9.8	-3.5	-9.7	0.9	-3.4	-6.3	-3.3	-9.0	-5.4	-4.7	-9.4	-10.7	-10.5	-4.0	-6.4	-11.7	-5.0	-12.5	-10.8

◇問題ごとの無答率を見ると、無答率が全国と比べても各問題低い傾向にある。観点別では【知・技】、問題形式別では【短答式】は、全国比の差を他形式と比べると差は小さい傾向にある。([1]は全国比を上回る。)
 ◆【思・判・表/記述式】では、[2(4)]理由を記述することや、[4(3)]事実を記述することに課題がある。
 ⇒[2(4)]については、二つの三角形の面積の大小を判断するために、平行な二つの直線の幅はどこでも等しいことに着目し、示された三角形の底辺と高さを適切に捉える学習活動を行うことが大切である。
 [4(3)]については、目的に応じて、示された複数のグラフから、データの特徴を捉え考察したり、見出したことを他者にわかりやすく数学的表現を用いて表現する学習活動を行うことが大切である。
 ◆【知・技/選択】では、示された基準量と比較量から割合を求めることに課題がある。
 ⇒[4(1)]については、図を用いて割合を捉える活動や基準量を自分で決めて、それに対する比較量を捉える活動を行うことで理解が深まると考えられる。

4 学習状況調査				5 まとめ(市の学力向上に係る重点事項の分析)	
(1) 肯定的回答の上位5項目(全国との差異)				<p>・「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」(主体的な学び) に対して肯定的回答は、全国と比べて小学校は(-9.4)であった。主体的に課題解決に取り組むことに課題が見られた。市としても子ども主体の授業づくりを重点事項の1つに設定しており、授業改善に取り組んでいる。児童が学ぶことに必然性を感じるためにも、日常の事象と課題設定を関連付けて行うことが大切だと考えられる。学力向上担当者を中心に、子ども主体の授業をめざした授業改善を今後も各校で進めていく必要がある。</p> <p>・「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」(協働的な学び) に対して肯定的回答は、全国と比べて小学校は(-9.5)であった。自分の考えを深め、広げられるような協働的な学びを実現する授業改善が必要である。情報教育担当者とも連携しながら、ICTを有効に活用した授業づくりの推進を図っていく。</p> <p>・「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか」(主体的な学び) に対して肯定的回答は、全国と比べて小学校は(-15.3)であった。自学力の向上が引き続きの課題である。市としても重点事項の1つとして設定しており、小学校から自主学習ノートなどを活用して家庭学習の習慣づくりに取り組んでいる。引き続き各校の好事例を広め、市域全体で取組みを進めていく必要がある。</p> <p>上記3つの質問項目に関して、いずれも肯定的回答の児童の平均正答率が高いという結果がみられた。特に、「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」に対して「当てはまる」と答えた児童の国語の平均正答率が71.2%、算数の平均正答率が65.0%と高い結果になっており、引き続き、児童が主体的に学習に取り組めるように授業改善を進めていく。</p>	
順位	全国との差	番号	ベスト5 (小学校) 質問内容		
1	3.2	(算2)	解答時間は十分でしたか(算数)		
2	2.4	(国2)	解答時間は十分でしたか(国語)		
3	1.5	(57)	将来、積極的に英語を使うような生活をしたり職業に就いたりしたいと思いませんか		
4	0.3	(24)	読書は好きですか		
5	0.1	(10)	困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか		
<p>◇「将来、積極的に英語を使うような生活をしたり職業に就いたりしたいと思いませんか」の質問に対して、全国の平均正答率より肯定的な回答割合が高かった。 ⇒日々の英語の授業が興味関心の喚起や必要感の向上へとつながっていると考えられる。 ◇また、「読書は好きですか」の質問への肯定的な回答割合が高くなっている。 ⇒学校図書館支援員の配置や、学校図書室の活用や、各教科指導と関連付けた読書活動の推進の成果だと考えられる。</p>					
(2) 肯定的回答の低位5項目(全国との差異)					
順位	全国との差	番号	ワースト5 (小学校) 質問内容		
1	-16.3	(18)	土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む)		
2	-15.7	(39)	総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか		
3	-15.3	(16)	家で自分で計画を立てて勉強をしていますか(学校の授業の予習や復習を含む)		
4	-13.7	(29)	5年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか		
5	-12.7	(32)	5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか		
<p>◆(18)、(39)、(16)課題を設定し、主体的に計画を立てて学習に取り組む質問に対して、全国の平均回答率よりも肯定的な回答割合が低かった。 ⇒家庭学習の習慣や学習力の定着などに課題が見られた。各校で家庭学習への取組みを進めているので、好事例を周知しながら継続して指導・助言が必要である。</p>					

シート内の表記について:◇(成果)⇒(成果の要因となった取組み) ◆(課題)⇒(改善に向けての取組みを例示)